

令和5年度園評価

大垣市立牧田保育園

1. 園の保育・教育目標

明るく元気な子
友達と楽しく遊べる子
よく考えて行動する子

2. 前年度園評価や幼児教育指導の方針と重点などを基にした、 園経営の重点及び具体的方策

- ・地域の方の名前を覚え、感謝の気持ちをもてる子どもを育てる
- ・牧田保育園の環境の良さを取り入れた体づくりの継続
- ・年齢に合わせた「できたよカード」の継続
- ・きらきらタイム（異年齢交流）の継続
- ・毎日1冊以上絵本の読み聞かせ
- ・季節に合わせて自然に触れられる環境設定

3. 評価項目の達成状況及び取組状況

短期目標	自己評価	保護者評価
一人一人に合わせた援助や環境を整えているか	3.3	3.8
運動遊びやリズム遊び、園外保育を通して体づくりをしているか	3.8	3.8
同年齢や異年齢と関わり、集団での必要な言葉を身につけているか	3.5	3.8
園児は様々な活動に興味をもっているか	3.5	3.7
園児は身の回りの生活の仕方が分かり自分から進んで行っているか	3.7	3.6
園児は家族や地域の方に感謝の気持ちをもっているか	3.8	3.8

4. 自己評価結果の概要

- ・一人一人の伸ばしたい姿を明確にし、保育者間で共通理解しながら視覚支援、分散保育を取り入れた。また、子どもたちの思いが実現できるように環境を整え、小さな“出来た”を積み重ねることで、一人一人が自信をもって活動するようになった。
- ・園外保育、園庭の活用、リズム遊びに重点をおいて体づくりを進めた。繰り返しの中、体幹が育ってきた。
- ・異年齢交流を計画的に取り入れたことで、異年齢で名前を呼びあったり、誘い合って一緒に遊んだり子ども同士の自然な関わりが増えた。
- ・保育者間で日々の挨拶、会話を大切に、些細な事も伝え合っている。保護者とは、連絡帳、参観、懇談、毎日の送迎の機会を捉え、園全体での相互理解に努めたことで、担任以外の保育者も全園児一人一人のエピソードが話せるようになった。
- ・運動会で保小一緒にソーラン節を踊ったり、もんでこ上石津で太鼓演奏をしたり、読み聞かせや畑、スタンプラリー等地域と連携を図った。
- ・週案やエピソード記録を職員間で見直したり、公開保育を行ったりすることで、自身を振り返り自己研鑽することが出来た。
- ・訓練の後の反省を次に繋げることで、園児も保育者も自ら意識する気持ちが身に付いてきている。

5. 関係者による評価及び意見の概要

- ・発達に合わせて遊びが工夫されている。
- ・農業体験等子どもたちに興味をもたせる教育が取り入れられている。
- ・スタンプラリーは地域を知り、交流する機会となっていてよい。
- ・定期的に命を守る訓練を行うことで、園児も避難の方法が身に付いてきている。
- ・小規模園の良さが随所に見られる。分散保育という考え方がよい。
- ・普段から保育者が思いやりをもって接しているので、園児もチクチク言葉でなく、ポカポカ言葉で話す姿が多くみられる。

6. 次年度に向けて

- ・小学校の統合による保小連携の取り組み方の工夫をする。
- ・今年度大きなけがなく過ごせた。次年度もけが防止の為、体づくり、食育活動の継続に加え、園児も含めた危険予知トレーニングを行う。
- ・引き続き小規模園の良さを活かし、異年齢交流の継続と、地域との連携を図り温かい園経営を行う。